

# 福島県 PSW による災害支援活動の実態 —インタビュー調査結果—

キーワード：東日本大震災、福島県、PSW、災害支援活動

○三浦修  
新潟青陵大学

## I 目的

本研究の目的は、東日本大震災被災県である福島県の精神保健福祉士（以下 PSW）による災害支援活動の実態について把握することである。

## II 方法

震災直後から継続して災害支援活動を実践している福島県の PSW2 名を対象とし、半構成的面接を実施した。調査実施時期は 2014 年 3 月であった。インタビューはすべて調査対象者の許可を得た上で録音によって記録し、文字データとして再構成した。文字データは、質的統合法を用いて分析した。倫理的配慮としては、調査対象者に対し、研究目的、方法、得られたデータの匿名性等のプライバシーの保持と厳重管理、研究参加の自由意志等について、研究協力に対する心情的拘束に十分配慮しながら書面と口頭で説明し、研究協力の同意書に署名を得た。得られたデータは研究目的以外の目的に使用しないこと、途中でも辞退可能であることを約束した。また、分析結果の公表について許可を得た。なお、本研究は、新潟青陵大学倫理審査委員会の審査を受け、許可を得て実施した。

## III 結果

「福島県 PSW による災害支援活動の展開に関する要素」ラベルは 183 枚であった。ラベルの意味や類似性でグループにまとめ、グループの内容を表すような一文を記述し「表札」とした。グループ編成は 4 段階繰り返ししながら【シンボルマーク】に統合された。その結果、表札 18 枚、シンボルマークは下記の 6 つであった。

1. 【PSW の災害支援活動の基盤】は、4 つの表札＜所属先機関・施設＞＜機能団体＞＜福島県 6 団体相談支援専門職チーム＞＜外部支援団体＞から構成された。
2. 【災害時のソーシャルワーク援助技術】は、2 つの表札＜アウトリーチの姿勢が重要＞＜アセスメント力＞から構成された。
3. 【災害支援活動を支えた専門職価値や思い】は、2 つの表札＜PSW 機能団体の仲間の存在＞＜PSW の専門性＞から構成された。
4. 【多機関・多職種連携によるアプローチ】は 2 つの表札＜促進要因＞＜阻害要因＞から構成された。
5. 【PSW が介入した（介入している）状況や対象者】は 4 つの表札＜避難所・仮設住宅における諸課題＞＜自殺＞＜遺族＞＜アルコール＞から構成された。

6. 【震災・原発事故に伴い生じた新たな課題】は、4 つの表札＜原発事故避難者＞＜災害救援者・二次的被災者＞＜社会的入院の増加＞＜コミュニティ再構築＞から構成された。

各シンボルマークの関連性を検討し図 1 に示した。

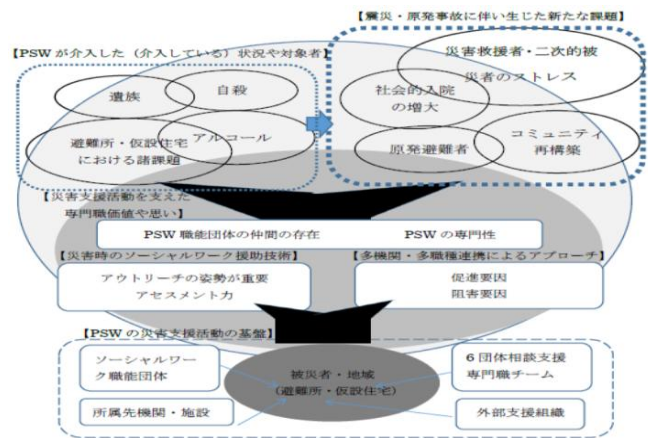


図 1 各シンボルマーク間の関連図

## IV 考察

福島県 PSW は震災及び原発事故に伴い生じた新たな課題に直面していた。特に、災害支援・救援活動を行ってきた災害救援者のストレス増大が課題となっており、メンタルヘルスクエアを含む災害救援者支援の拡充が必要であることが分かった。災害救援者支援に向けて PSW の有する機能を発揮していくことは今後の PSW による災害支援活動の目標の一つになるのではないかと考えられた。

## V 結論

原発事故等に伴う避難者など福島県特有の問題は複雑化・長期化してきていることから、①対応に困難さを感じている PSW が多いこと、②PSW に対する災害支援に特化した研修制度が未確立であることが明らかになった。今後、PSW が新たな課題に対応し、災害支援活動を推進していくためには具体的な研修プログラムを構築し、スーパービジョンの拡充を含むフォローアップシステムが必要であると考えられる。

本研究は平成 25 年度科学研究費補助金（若手研究（B）、課題番号 25780352）による研究の一部である。

## 参考文献

加藤優妃・他．東日本大震災から 3 年—精神保健福祉士は何ができたか、そしてこれから何をなすべきか．精神保健福祉．2014;45(1):37-44